



カミズ コウノトリ繁殖支援プロジェクト@2020 神栖

ニュースレター No.3

2020年7月22日



神栖の石田進市長を訪問、プロジェクトについて説明・提案しました！

現在、利根川下流域の神栖市域で展開している当プロジェクトですが、その推進においては、地元自治体の理解と支援・協働が不可欠です。

かねてより神栖市にプロジェクト推進の連携・協働の提案に伺いたいと考えていましたが、コロナ対策との兼ね合いで見通しが不透明になっていました。このほど、波崎愛鳥会の柳堀会長のお骨折りで、急遽、石田神栖市長と面会できることになり、柳堀会長を始めプロジェクトを先導頂いている長谷川雅美・東邦大教授、(公財)日本生態系協会の須永・関理事等で、6月16日に神栖市を訪問して来ました。石田市長へは、プロジェクトの背景・内容の説明、市民・流域連携の重要性、人工巣塔の維持管理、近親婚への対応等も含めた、今後の取組みを進めるうえでの連携・協働についての提案をしました。



石田市長（写真中央）には活発な意見交換をして頂きました。

石田市長からは、これまでに利根川下流域でコアジサシやヒヌマイトトンボ等の希少な生きものへの保護対策に関係したことや、あまり一般には知られていない「ボラのアライ」の味の良さなど、利根川からの自然の恵みについて、地元愛を強く感じるお話をいただきました。

本プロジェクトについても、神栖の環境の良さをコウノトリ自ら選んで巣づくりを始めたことは大歓迎であるものの、市民を始めとした関係団体や機関の協力が無いとコウノトリが末永く住みつくまちならなと思う、として積極的な連携の要請がありました。具体的には、コウノトリを受け入れるためには市役所内の関係各課が参加する勉強会を催すことや、市のまちづくりビジョンへ位置づけて必要であれば予算化も検討していきたい、との力強いお言葉もいただきました。

また、コウノトリの行動圏が広いことや、餌となる水生動物等が豊かな生息環境の保全整備が必要なことから、国交省（利根川下流河川事務所）や流域自治体（茨城県や銚子市、香取市、潮来市、東庄町）との連携・協働が不可欠な条件となりますが、これについても、これまでの様々な積み重ねがあるので、コウノトリをテーマとした広域的な地域づくりの推進は、全く違和感がなく進めて

いける課題である、との認識も示されました。

市長との意見交換のあとは環境課にも寄り、高田環境課長を始めとする課内の方々にも、本プロジェクト推進への協力をお願いしました。

神栖市内での今年のコウノトリの繁殖は持越しとなりましたが、コウノトリたちは引き続き神栖の水田や利根川



プロジェクトの連携を確認して一同笑顔。
(右から2番目が石田市長)

の湿地で過ごしています。今後、関東平野の繁殖拠点となることは間違いないと思われることから、本プロジェクトを積極的に受け止めていただいた神栖市の対応は大変心強く、これからの連携が大いに期待されます。



コウノトリたちが過ごしている『神栖市の風景』

【堤内地】 **水田**(左から、利根川沿いの水田、地域特有の「掘り下げ田」、素掘り水路)

※掘り下げ田:水がすぐにしみこんでしまう砂地を1m以上掘り、水がたまりやすくして耕作している湿田

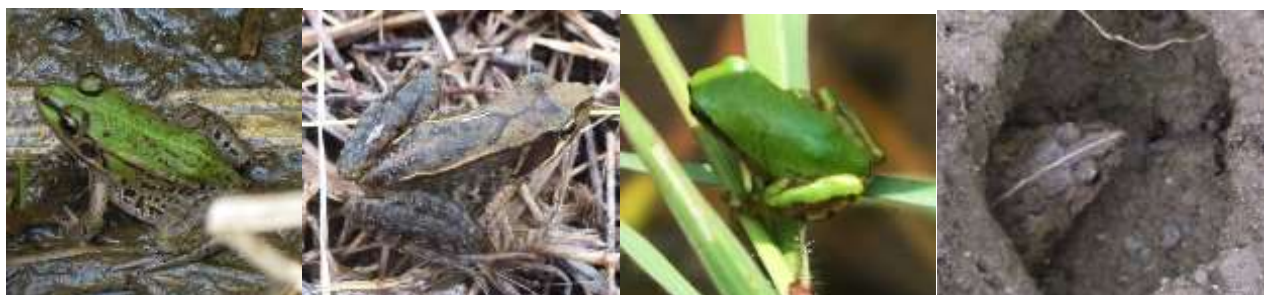


【堤外地】 **利根川河川敷**(国交省による自然再生事業地) ※神栖市川尻・矢田部地区付近



神栖の生き物たち

●餌となる生きもの:**カエル類**(トウキョウダルマガエル、ニホンアカガエル、ニホンアマガエル、ヌマガエル(移入種))



●最近のコウノトリ(左から、未来、翔、翔とレイ) ※写真提供:波崎愛鳥会・阿部氏(7/19撮影)



★コウノトリ観察においての際は、地元住民・農家の方々のご迷惑にならないよう、また、コウノトリたちに近づきすぎないように、ご注意くださいようお願い致します。

【協働推進団体】波崎愛鳥会・日本野鳥の会茨城県・(公財)山階鳥類研究所・(公財)日本生態系協会

【お問合せ】(公財)日本生態系協会(担当:大見) ☎048-649-3860/Email: kounotori@ecosys.or.jp